

「温かくなる、心の銀行に貯金を」

そして試合の時は、練習したとおり、友だちがパスしたボールをただゴールに入れることを彼女は夢中でやるんですね。シートが入って、そして勝ったんです。

あの時、子どもたちは彼女が倒れるとすぐに起こしに来てくれるんですね。

その姿を見て、これはすごいな！何てすごい子どもたちなんだ！本当に優しい子どもたちだと思いました。

学級目標に「支えあう仲間」というのを掲げていました。「きみらは本当に支えあう仲間や！素晴らしい仲間や！」と、ほめていました。ほめていたらどんどん子どもたちが変わっていきんです。

そしたら「大丈夫か！よし今度は自分で立って！」という掛け声に应えて彼女は自分の力で立つんですね。

こんな姿を見ていて、優しさというのは、上に人がいるのとは違う。そこで一緒に苦しみ悩み、一緒に力をつけて伸びていくんやということを、子どもたちに教わりました。

優しさというと、ひ弱いイ



メージがありますが、本当の優しさというのは、強さなんだということを十歳の子どもたちに教えてもらいました。

教師や親は、子どもがつまづいた時にどうしますか。そのままずきを取ってやろうとしますよね。それは親心、教師心というものかもしれない。でも本当は、それを乗り越える力をつけてやることなんです。乗り越えさせて自信をつけてやることなんです。

みんな苦しくてやり逃げたという自信のある子どもたちは、中学校へ行っただけでも頑張ろうという気持ちになる。そういう子どもは高校へ行っても、会社へ行っただけでも、みんな協力して頑張ろうという気持ちになれるんです。優しさをいっぱいも

らった子どもは、周りにきつと与えてくれます。そういう体験が基になっていくと思うんです。だから反対に小さいときから自分勝手に世間体だけを気にするとうふうに育てられたら、やっぱりそれが大人になってからの価値観になっちゃう。そしてその子も自分勝手になっちゃうんです。だから、友だち同士、みんなで一緒にやる、やったというつながりを持つこと、大きな体験をすることが、豊かな人生を送る原動力になるんです。

「先生！私には『憂』という字は、百の愛に見える。憂いのある人には百の愛をあげたいいなや。そしたらその人きつと元気になるで」と言った子どもがいます。僕には人に百の愛があるというふうに見えていなかったの、すごくびっくりしました。

自尊心を育てましょう

人権教育の必要性が叫ばれていますが、私は、「自尊心を育てましょう」と言っています。

自尊心というのは自分のことを好きになるということです。自分のことを好きになって豊かな気持ちになったら、優しくなれるんですね。友だちのいいところを見つけようという授業をやっているんです。人権の学習ではそういうことをしています。

「自分のどんところが好き？」と四年生に聞きました。

・友だちがいっぱいいる自分が好き

・家の用事を毎日する自分が好き

などと子どもたちは答えます。「二年、三年と一度も欠席したこと無いなあ。なかなか出来